

こんにちは。大和州市営住宅の指定管理者「株日立ビルシステム」です。
あの未曾有の大震災から9ヶ月が経ち、皆さんはどんな対策をされていますか。
過去に発生した大きな地震では、家具類の転倒・落下や割れたガラスによる負傷者が、
全体の約3割から5割を占めているそうです。(東京消防庁資料より)
そこで今回は家具類の転倒・落下の防止について考えましょう。

家具類の転倒・落下対策のポイント

家庭の大掃除や模様替えは、対策の絶好の機会なので、参考にして下さい。

1. 安全空間を確保する

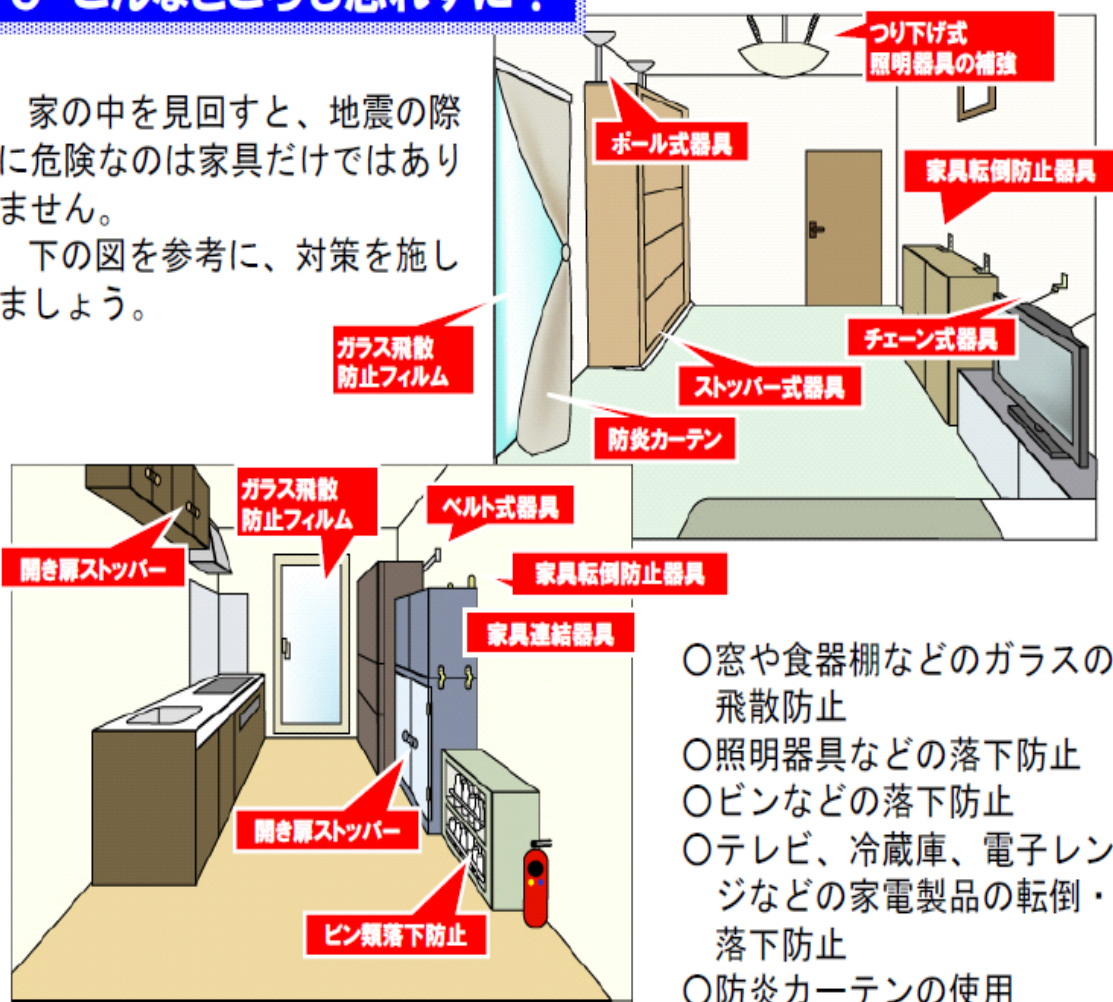
- 寝室、幼児・高齢者のいる部屋にはなるべく家具を置かない。
- 部屋の出入り口付近や廊下、階段等に物を置かない。
- 地震時の出火を防ぐため、火気の周辺に家具を置かない。
- 家具の上にガラス製品等壊れやすいものを置かない。

2. 家具の正しい設置・使用を行なう

- じゅうたんや畳に背の高い家具を置かない。
- 重い物を下の方に収納し、倒れにくくする。
- 前のめりより、後ろもたれ気味に置く。

3 こんなところも忘れずに！

家の中を見回すと、地震の際に危険なのは家具だけではありません。
下の図を参考に、対策を施しましょう。



転倒防止器具等で固定する (東京消防庁作成パンフレットより)

- 壁や床に直接固定できない場合、2種類以上の器具で上下から固定する。
- 上下が分割している家具は必ず金具で連結する。(金具連結器具)
- 壁への固定が困難な場合、天井との隙間を埋める。(高さ調整式の上置き型収納ユニット)

家具と天井の間に、衣服などを詰めた段ボール箱や収納ユニットを置くだけでも効果あり

【注意】天災で無く、人災をつくらないために

市営住宅内のベランダで喫煙し、吸殻を階下に捨てポヤをだすことが発生しました。
絶対にタバコの投げ捨てはやめましょう！

お問合せ先: ㈱日立ビルシステム 大和受付センター
電話: 046-262-8800